

海外景気金融・アジア

生産指数の伸びでも格差顕在化する韓国、タイ

足下小康を示すアジアの金融市場

政治不安等でインドネシア、タイ等の通貨が下落したが、インドネシアの国民協議会が無事終了したことで、足下小康状態を示しつつある。他方、実態経済のGDP成長率等にNIES等とインドネシア、タイ等との間の回復格差が顕在化しており、製造業生産指数にも同様の傾向が見られる(図)。

鈍化するも拡大基調を維持する韓国生産指数

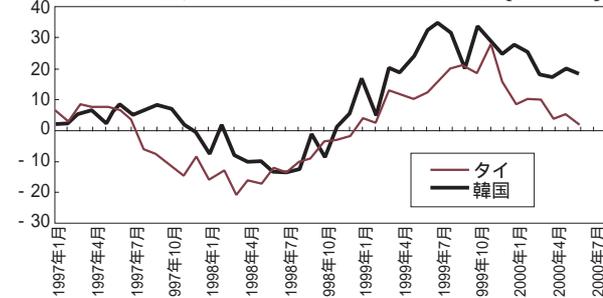
韓国の6月の製造業生産指数は前年比18.3%増と今年に入り伸びが鈍化してきている。しかし、これは昨年年初以降の急回復の反動という面もあり、生産は2桁の拡大基調で投資も増加し、設備稼働指数も6月同3.1%増と増加傾向を維持している。輸出も7月前年比23.6%増(6月同19.4%)と好調で、上期の半導体輸出は199億米ドル(前年比31.8%増)と史上最高を記録し、自動車輸出も上期790千台(同16%増)と堅調である。このように生産は半導体等IT関連が突出しているが、建設等を除き幅広い業種で拡大している。しかし、卸小売販売指数の足下の鈍化傾向、ウオン高基調、原油高止り等による物価上昇懸念等から、今後生産拡大基調は維持されようが、ペースはやや鈍化してこよう。

他方で、韓国経済は現代グループの資金繰り懸念や今年後半から来年にかけ危機時に発行された80兆ウオン(国家財政の2/3に相当)の社債償還の課題を抱え、銀行もBISの自己資本比率未達行(6月末基準)が5行あり、それらに対し経営正常化計画の提出を当局は求めている。8月の内閣改造で刷新された新経済チームがこれらの課題を実態経済の強さを活かしながら克服していくとみられる。

飲料関連過剰在庫で急低下するタイ生産指数

タイの6月の製造業生産指数は前年比1.4%と年初以降急低下を示している。これは飲料関

図 韓国、タイの鉱工業生産指数推移(前年比)



資料 Datastream

連自由化による設備拡張で過剰在庫発生に伴い生産が低迷したという特殊要因等によるもので、タイ中銀のレポートによると飲料を除いた6月の生産指数は前年比10.8%(5月同13.6%)と、自動車・部品、モーター、集積回路、テレビ等が好調で依然2桁の拡大を維持している。6月の輸出も同15.1%増と、43%増の自動車やエレクトロニクス製品が牽引している。しかし、設備稼働率は6月56.3%と昨年11月の65.8%から悪化しており、IT関連や回復基調の自動車等を除き生産回復の業種的裾野の拡大は進んでいない。

また、野党下院議員の大量辞職で懸念されていた政局混迷は年内総選挙で現行連立与党体制が維持される見込で収束に向うと見られるが、韓国に比しIT関連のウエイトが低いこと、7月の自動車販売はパーツ安等によるガソリン価格値上げ等で前月比13.4%に留まったこと等から、生産の回復は当面穏やかなものに留まろう。

引続き注目されるIT需要の動向

米国の1~4月のハイテク製品輸入に占める韓国製品の順位が従来の5位から3位に上昇する等、韓国等の生産拡大にIT関連の寄与は大きい。アジア景気回復の行方にとってIT需要の影響は大きいので、現状一部電子部品が不足するほど需要が堅調で当面底堅いと判断するが、今後も動向を注視する必要がある。

(千葉 進)